



川崎市からのお知らせだよ！

プラスチック製容器包装の 分け方・出し方



分別収集に
ご理解とご協力を
お願いします



主なプラスチック製容器包装

トレイ類	カップ・パック類	ボトル類	チューブ類	ふた(キャップ)類	ポリ袋・フィルム類	梱包装材料(ネット)類
肉、魚の食品 トレイ、 弁当容器	カップ類、卵 などの容器	洗剤、シャンプー などの容器	マヨネーズ、 ケチャップなどの 容器	チューブ類のふた、 ペットボトルの キャップ	レジ袋、パン・スナック 菓子の袋、ペットボトル のラベルなど	発泡スチロール、 果物ネットなど

プラスチック製容器包装の出し方

カップ類の容器

すすいで

これでOK

お菓子の袋

中身を払って

これでOK

歯磨き粉など

中身を使い切って

これでOK

家庭での保管方法

「重ねたり、切ることで」

※はさみ等で切って
手など切らないように
ご注意ください。

こんなに
コンパクトに!!

●容器に記載がある場合

●容器に記載はないけど

※このトレー・トレーふたが対象

間違えやすいもの (普通ごみとして出してください。)

CD/DVD、 ビデオテープ(ケース含む)	タッパー類	ストロー	スプーン・フォーク	歯ブラシ	文房具など	バラ	おもちゃなど (プラ製)

川崎市 環境局
KAWASAKI CITY



ごみゼロカフェNews

平成29年度第1号

平成29年度第1回ごみゼロカフェ × 幸市民館市民自主企画 もっと知りたい!ごみのこと!

「川崎のごみ 世界のごみ」

開催日時 平成29年10月28日(土) 10時~12時
 参加者 32名
 開催場所 幸市民館 第1会議室
 【主催】市民自主企画 : CCさいわい・川崎市教育委員会
 ごみゼロカフェ : 川崎市環境局



第1回ごみゼロカフェを開催したので、その様子を紹介するね!
川崎のごみの歴史!世界のごみ事情など興味深い話を聞いて、
みんなでごみを減らすために何ができるか考えてみたんだ!



かわるん

ごみ減量についてみんなで考えてみました!

ごみの減量化・資源化をより推進するため、さまざまな市民がごみ減量について意見交換する「ごみゼロカフェ」を開催しました。
 今回の「ごみゼロカフェ」では、講師の先生より「川崎のごみの歴史」や「世界のごみ事情」など、興味深い話を伺った後、参加者が小グループでお茶を飲みながらカフェのような気軽な雰囲気の中「自分達に何ができるか」アイデアを出し合い、皆で「エコ暮らし」を再確認しました。

第1部 (講演)

テーマ : 川崎のごみの現状、
世界のごみをめぐる問題について
 【講師】 一般財団法人日本環境衛生センター
 研修広報部 部長 村岡良介氏

第2部 (ワークショップ)

テーマ : みんなでごみ問題の解決を
考えよう
 6班に分かれて意見交換しました



<「ごみゼロカフェ」とは・・・>

平成28年度から始めた事業で、ごみの減量化・資源化に係る市民参加を推進するため、さまざまな年代の市民や事業者など多様な主体がごみ減量について意見交換する場です。カフェのようにお茶を飲んでくつろぎながら小グループで意見交換をし、アイデアを出していきます。開催結果は「ごみゼロカフェNews」にまとめて広報するとともに、市のごみ減量施策に反映していきます。

お問い合わせ 川崎市環境局生活環境部減量推進課 E-mail : 30genryo@city.kawasaki.jp
 TEL : 044-200-2605 FAX : 044-200-3923
 ごみゼロカフェに対する意見をお寄せください!お待ちしております! 発行 : ごみゼロカフェ運営委員会 平成30年1月



村岡先生のお話を聞いてなるほど！と思うことがいっぱい！

講演

【村岡先生のおはなし】～もっと知りたいごみのこと！～

20世紀

高度経済成長 川崎でもごみ急増
 1950年代 リヤカーから全国で初のごみ収集車（機械化）
 し尿：昔は肥料→海洋投棄（今は禁止）
 川崎市に4つの焼却施設→当時は**ごみ処理先進都市**（日本でも最新の技術）
 灰などは埋め立て（当時は**環境最先端都市**）しかし埋立地はあと32年で満杯



手動による収集運搬

1990年（平成2年） 川崎市はごみの運搬も環境配慮（全国に先駆け『鉄道輸送システム』）
 20世紀は高度な行政サービスに頼っていた（大都市ほど遅れている？）
 『**ごみ非常事態宣言**』（このまま増えていいのか？）

21世紀

『**循環型社会**』を目指して（地球温暖化防止も意識して）

2000年代～ 『**3R**』：**リデュース**（ごみを出さない）・**リユース**（再利用）・**リサイクル**（再生して利用）

（IC・リックサックの問題）日本は天然資源を途上国から輸入し、採掘による多くのいらぬものを途上国に置いてきている

川崎市のごみ

ごみの総排出量：
 2006年度（約60万トン）
 2012年度（約53万トン）
 近年は横ばい

4から3処理センター体制へ
 ごみ処理費用は、**年間約136億円**
 ⇒もっと減らして他のことに！

課題：「家庭ごみのさらなる減量」
 「事業系ごみの減量」
 「災害時に発生する膨大なごみ」
循環型社会へ
 ごみを発生させない
 どう減らす？

世界のごみ

- ・ドイツでは、小学校でごみの分別やリサイクルを教えていて、マイバッグ・野菜のバラ売りは当たり前
- ・日本は1人あたりのごみ焼却量は世界一
- ・諸外国ではまだ埋立のところも多い（理由は、焼却場建設はコストが高いため）

課題：ごみが放置されている国も多い
 ウェスト・ピッカー（インド）
 （ごみ拾いをして生計をたてている人）
 海洋のごみ（漂着ごみ）

新たな報告

リサイクルよりも『**2R**』
 リデュース(出さない)・リユース(再利用)が重要



都市鉱山から作る！
“みんなのメダルプロジェクト”

日本には、世界に誇る高い技術があります！
 みんなの手でアスリートにメダルを提供できるプロジェクト、海外のアスリートも注目している素晴らしい取り組みです。
 是非、家庭で眠っている小型家電を“市役所”やお近くの“区役所”“市民館”などの回収BOXまで持ってきてください！



環境にやさしい鉄道輸送 モーダルシフト



スクレイドラム車 (1955-1964)



Ecoちゃんず

川崎のごみの歴史も、世界のごみ事情もいっぱい知ることができたね！



村岡先生の話を取りながら、みんなで考えてみたよ！

ワークショップ

【自分たちに何ができる？】ごみを減らすためにこんなことができたらいね！

「ごみの先進都市かわさき」をアピール

スクレイドラム車を日本で初めて開発したのが
 “かわさき”
 ごみ輸送鉄道（モダリティ）を走らせているのが
 “かわさき”

「ごみ削減による効果」をアピール

「皆さんの協力で、ごみがこれだけ減ったので、税金を〇〇に回しました！」
 「今月“みんなのメダルプロジェクト”でメダル〇個分の金属が集まりました」
 など、具体的効果を大々的にお知らせする

“見える化”して広報

市民意識の向上

“未来に向けて”
具体的行動

無駄にしない

- ・無駄なものを買わない
- ・最小限の量で料理をする
- ・1週間に1回買物をしないで冷蔵庫を整理する日を決める
- ・マイバッグを持ち歩く
- ・家にある使わなくなった携帯電話をリサイクルボックスに提供する

分別する

- ・リサイクルの入っている箱をミックスパーに出す
- ・（企業へ）“プラ”紙“マーク”ももっとわかりやすく表示して！
- ・（行政へ）分別のちらしをもっとわかりやすくして！

再利用(工夫)

- ・何でも「半永久化できないか」を考えて工夫をする
- ・（企業へ）過剰包装はなるべく簡略化して！
- ・（企業へ）マイバッグ持参のインセンティブ（特典制度）促進！

その他

- ・自分達が意識を持って実践していれば、若い方もついてくる
- ・ごみの分別、ごみの減量は、“やる”という心がけが大事
- ・このようなごみの学習会や施設見学会などに参加してごみについて学ぶ事も大切



モリオン

最後に
村岡先生から皆さんへ3つのお願い！

- ①「3切り」（使い切り：食べ切り・水切り）
- ② 分別は「排出元」から（ためないでごみがでたところから分けて捨てよう！）
- ③ 基本は3R（「リデュース・リユース・リサイクル」）
 + 「リフーズ」（拒否する・拒む）
 「リペア」（修理して長い時間使う）

<昨年度のごみゼロカフェを受けて>

昨年度のごみゼロカフェの「ごみに関心がない方にも参加してもらえる工夫を」という意見を受け、市民館と共同で開催しました。